

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	(掲 載 号)
学術集会・講習会		
2006年6月26日(月)～9月27日(水)	平成18年度統計数理研究所公開講座(東京・統計数理研究所)	[415]
8月23日(水)～25日(金)	日本比較免疫学会第18回学術集会(広島県・県立広島大学広島キャンパス)	[414]
25日(金)～27日(日)	平成18年度野外生態実習「植物群落の分け方」(東京・国立科学博物館附属自然教育園)	[415]
9月1日(金)～2007年3月31日(土)電顕試料作製・観察実技および光顕技法講習会[417]		
2日(土)	平成18年度自然観察会「鳴く虫」(東京・国立科学博物館附属自然教育園)	[415]
8日(金)～9日(土)海學問－白鳳丸・淡青丸研究成果発表会－(東京・日本科学未来館)[417]		
14日(木)～16日(土)	日本植物学会第70回大会(熊本市・熊本大学黒髪北地区キャンパス)	[409] [412]
20日(水)～22日(金)第47回大気環境学会年会(東京・東京大学本郷キャンパス)[417]		
21日(木)～24日(日)	日本動物学会第77回大会(松江市・島根大学松江キャンパス)	[409] [411]
22日(金) 第56回科学講演会「免疫の戦略－がん・自己免疫病に挑む－」(東京・有楽町朝日ホール)[417]		
25日(月)	ソルト・サイエンス・シンポジウム2006(東京・早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール)	[414]
28日(木)～29日(金)	第31回日本医用マススペクトル学会年会「質量分析技術の新たな挑戦」(名古屋市・名古屋国際会議場)	[415]
10月7日(土)～10日(火)2006年度日本魚類学会年会(静岡市・静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」)[414]		
8日(日) 平成18年度筑波山の菌類観察会(つくば市・菌学教育研究会 筑波センター)(417)		
13日(金)	酵素工学会第56回講演会(東京・東京大学山上会館)	[416]
15日(日) 平成18年度自然観察会「川原の生きもの」(東京・多摩川(二子玉川))(417)		
21日(土)～22日(日)	日本爬虫両棲類学会第45回大会(東広島市・広島大学東広島キャンパス)	[416]
27日(金)～28日(土)	第57回日本電気泳動学会総会(静岡県・アクトシティ浜松コンgresセンター)	[413]
28日(土) 応用物理学会主催第5回教育シンポジウム「21世紀の理科教育－これからの理科100年に向けて－」(東京・東京大学駒場キャンパス)[417]		
31日(火)～11月2日(木)	第15回日本バイオイメージング学会学術集会(盛岡市・岩手医科大学附属循環器医療センター)	[416]

生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合の詳細については、本ニュースの巻末をご覧ください。

生物科学ニュース編集委員会 電話 03-3814-5461 (10時半から4時まで (水曜日のみ))

FAX 03-3814-6216 E-mail bsnews@bsj.or.jp

(社)日本植物学会、(社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

FAX 03-3814-5352 E-mail bsj@bsj.or.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

FAX 03-3814-6216 E-mail zsj-society@umin.net

11月10日(金)～13日(月)「菌類の多様性と分類」平成18年度後期講座(つくば市・菌学教育研究会 筑波センター)
〔417〕

11日(土) 2006年度藻類談話会(神戸市・神戸大学瀧川記念学術交流会館)〔417〕

14日(火)～17日(金)第19回内藤コンファレンス「幹細胞の維持と分化の分子基盤〔Ⅱ〕」(神奈川県・湘南国際村センター)〔414〕

21日(火)～22日(水)第29回極域生物シンポジウム(東京・国立極地研究所)〔416〕

12月7日(木) 第31回日本比較内分泌学会シンポジウム「比較内分泌学の新世紀」(東京・早稲田大学国際会議場井深ホール)〔417〕

国際会議

2006年9月3日(日)～8日(金)第16回国際顕微鏡学会議(The 16th International Microscopy Congress(IMC16))(札幌市・札幌コンベンションセンターおよび札幌コンサートホール)〔409〕

2007年3月26日(月)～31日(土)第19回国際海藻シンポジウム(The 19th International Seaweed Symposium)(神戸市・神戸国際会議場)〔415〕

公 募

2006年8月30日(水) 平成18年度(第28回)沖縄研究奨励賞候補者推薦〔416〕
30日(水) (財)ノバルティス科学振興財団平成19年度(2007年度)研究集会助成候補推薦〔416〕
31日(木) 第18回加藤記念国際交流助成(後期)〔413〕
31日(木) 第15回(平成18年度)木原記念財団学術賞〔415〕
9月1日(金) 平成18年度(第15回)藤原ナチュラリストリー振興財団学術研究助成〔414〕
11日(月) 第47回(平成18年度)東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成〔413〕
15日(金) 第14回生態学琵琶湖賞〔415〕
20日(水) (財)井上科学振興財団第23回井上研究奨励賞〔413〕
20日(水) (財)井上科学振興財団第8回(平成18年度)井上フェロー採用希望研究者〔413〕
10月2日(月) (財)内藤記念科学振興財団第38回(2006年度)内藤記念科学振興賞〔414〕
2日(月) 第1回内藤記念女性研究者研究助成金(後期)〔414〕
2日(月) 第23回内藤記念海外研究留学助成金〔414〕
2日(月) 第38回内藤記念海外学者招へい助成金(後期)〔414〕
13日(金) 平成19年度笹川科学研究助成〔417〕
30日(月) 2007年度女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」〔416〕
31日(火) 第10回尾瀬賞〔415〕
31日(火) ベルリン日独センター科学技術賞〔416〕
11月15日(水) 第12回(2007年度)日本女性科学者の会奨励賞〔417〕
20日(月) 第1回内藤記念フェローシップ(サバティカルリープ)(冬季)〔414〕
20日(月) 第6回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(冬季)〔414〕
30日(木) 第9回大学婦人協会守田科学研究奨励賞〔417〕
12月8日(金) 第45回(平成18年度)下中科学研究助成金〔416〕
11日(月) 平成18年度(財)昭和聖徳記念財団学術研究助成〔417〕
31日(日) 平成18年度風戸研究奨励金(研究費助成)および風戸奨励賞〔417〕
2007年2月20日(火) 第1回内藤記念フェローシップ(サバティカルリープ)(春季)〔414〕
20日(火) 第6回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(冬季)〔414〕

求人

2006年 8月31日(木)	島根大学総合科学研究支援センター生体情報・RI 実験分野専任助教授 1名(417)
9月11日(月)	東京大学大学院・総合文化研究科・広域科学専攻生命環境科学系助教授 1名(416)
15日(金)	近畿大学理工学部社会環境工学科助教授または講師 1名(416)
16日(土)	東京大学海洋研究所海洋生命科学部門(生理学分野)特任助手 1名(417)
19日(火)	長崎大学環境科学部自然環境保全講座助教授 1名(417)
22日(金)	兵庫県立大学大学院生命理学研究科(生体情報学 I 分野)教授 1名(415)
30日(土)	神奈川大学理学部生物科学科教授 1名(416)
10月13日(金)	山形大学理学部生物学科生物多様性講座と生体機構講座それぞれ教授または准教授 1名(417)
14日(土)	神奈川大学理学部生物科学科助手(任期制) 1名(417)
30日(月)	広島大学大学院理学研究科生物科学専攻動物科学講座教授 1名(417)
31日(火)	熊本大学大学院自然科学研究科生命科学講座助教授 1名(417)
11月10日(金)	慶應義塾大学商学部生物学教室助手(嘱託) 1名(417)

学術集会

●海學問一白鳳丸・淡青丸研究成果発表会ーが、9月8日(金)～9日(土)に、日本科学未来館 7F「みらい CAN ホール」(東京都江東区青梅)で開かれます。

研究船白鳳丸及び淡青丸は、平成16年4月に海洋研究開発機構に移管され、学術研究船として東京大学海洋研究所が全国の海洋科学の研究者の意見を反映して策定した運航計画により全国共同利用に供しているところで、この新しい体制に移行して2カ年が経過し研究成果が次々と発表されております。これらの研究成果を発表するため開催することになりました。参加申し込み(学生は不要)は下記ホームページから申し込んでください。

【問合先】 海學問事務局 E-mail umigaku@ori.u-tokyo.ac.jp ホームページ <http://www.ori.u-tokyo.ac.jp>

●第47回大気環境学会年会在、9月20日(水)～22日(金)に、東京大学本郷キャンパス工学部2号館他で開かれます。内容は次のとおりです。

一般研究発表、ポスター発表のほか、下記のような特別講演、シンポジウム等が予定されています。

特別講演：(9月21日15:00～15:30) 安田講堂にて「環境学の研究と教育に果たす大学の役割」(仮題)(東京大・小宮山宏)

シンポジウム「アスベスト汚染問題から我々は何を教訓とすべきか」：(9月21日15:45～18:00) 安田講堂にて「労働災害と環境汚染問題ーアスベストを例として」

(毎日新聞・大島秀利)、「疫学から見たアスベスト問題」(岡山大・津田敏秀)、「アスベスト問題と専門家の倫理」(大気環境学会・古谷圭一)、「アスベスト問題から行政が学ぶべき教訓」(環境省・松井佳巳)、「アスベスト問題から自治体が学ぶべき教訓」(大気環境学会・岩崎好陽)、「今患者が求めていること、新たな環境被害者を出さないために求めること」(アスベスト肺患者)、パネルディスカッション

特別集会：(9月20日午後)「われわれの直面する研究者倫理の問題」(倫理委員会)、「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク：15年の歩みと展望」(原 宏)／(9月20日夕)「日本における酸性霧の現状と評価」(酸性雨分科会)、「道路沿道における未規制物質の現状と課題」(環境大気モニタリング分科会・自動車環境分科会)、「臭気測定・評価方法の国際動向」(臭気環境分科会)、「環境化学物質に対する感受性要因」(健康影響分科会)、「大気と植物と人と」(植物分科会)、「東アジアにおける文化財影響調査と国際協力」(文化財分科会)、「最新の都市大気エアロゾル研究～観測とモデルの接点」(都市大気環境モデリング分科会・都市大気エアロゾル分科会)、「VOC 対策の技術と評価」(発生源対策分科会)、「フラックスサンプラーを利用した室内汚染発生源の探索」(室内環境分科会)／(9月21日午前)「大気環境基準に関する研究討論会」(大気環境学会)、「東アジア地域の大気環境問題：研究の現状と今後の展開」(国立環境研究所アジア自然共生研究グループ)、「塗装・印刷工場から排出される VOC (揮発性有機化合物) の削減」(VOC

削減対策技術研究会)／(9月22日午前)「日本大気環境学会－韓国大気環境学会合同国際シンポジウム」(国際交流委員会),「酸性降下物計測の立場から探る大気化学反応」(大気化学反応分科会),「自治体におけるアスベスト測定に係る現状と課題」(全国環境研協議会),「局地的大気汚染の健康影響に関する疫学調査」(新田裕史)／(9月22日午後)「大気環境アセスメントにおけるCFD シミュレーション手法適用性」(関東支部予測計画評価部会)。

テクニカルツアー：東京都スーパーエコタウン事業臨海地域施設見学

懇親会：(9月21日18：30～)

年会参加費：会員8,000円, 学生会員4,000円, 非会員は, 10,000円。講演要旨 CD 代(送料込み)を含む。ただし, シンポジウムのみの参加は無料です。／講演要旨 CD のみ購入：5,000円(送料込み)／懇親会費：5,000円
【問合先】 164-0003 東京都中野区東中野4-27-37 株式会社アドスリー 第47回大気環境学会年会事務局 FAX 03-5925-2913 E-mail info-jsae06@adthree.com 年会ホームページ <http://jsae2006.adthree.com/>

●**第56回科学講演会「免疫の戦略－がん・自己免疫病に挑む－**」が, 9月22日(金)(午後5時～8時)に, 有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11階)で開かれます。内容は次のとおりです。

I. 免疫細胞でがんを挑む(理研免疫・アレルギー科学総合研究セ・谷口 克), II. 免疫学の100年－血清療法から抗体医薬へ－(大阪大院生命機能・岸本忠三)

入場は無料です。予約なしで当日会場先着順(定員630名)です。

【問合先】 279-8555 千葉県浦安市美浜1-8-1 (財)東レ科学振興会 TEL 047-350-6103 FAX 047-350-6082 E-mail JDP00117@nifty.ne.jp ホームページ <http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

●**応用物理学会主催第5回教育シンポジウム「21世紀の理科教育－これからの理科100年に向けて－**」が, 10月28日(土)(午前10時～午後6時)に東京大学駒場キャンパス学際交流棟3階学際交流ホール(東京都目黒区駒場3-8-1)で開かれます。内容は次のとおりです。

本シンポジウムでは, 小学校, 中学校, 高等学校から文部科学省に至る教育関係者, およびマスコミ各方面から講師を迎え, これからの理科100年に向けて, 理科教

育のありかたを討論します。

前回教育シンポジウムの争点と大学における物理教育(東北大・小池洋二), 予備校から見た物理教育(河合塾・杉山忠男), 毎月の物理キーワード(慶應義塾高・喜多 誠), 中学生とともに, 考える楽しみを共有できる理科授業の試み(浦安市立富岡中・山根津貴子), 初等理科教育の成立を目指して～子供独自の見方・考え方を生かした授業づくり～(姫路市立八幡小・村山正哉), 学会が行う公益事業としての科学啓発活動のあり方(福岡大・平松信康, 中部大・岡島茂樹), 海外の理科教育の現状紹介(東京工科大・毛塚博史), 物理教育国際会議2006年8月開催報告(東京大・兵頭俊夫), 科学技術基盤教育振興についての私の提案とアクション(日本理科教育振興協会・倉持行良), 壁をこわそう(毎日新聞社・元村有希子), 科学ボランティア100万人時代を作ろう(東京大・滝川洋二), 教育行政から見る理科教育の課題(千葉県教育庁・大山光晴), 理数教育の充実方策(文部科学省・井上示恩)／パネルディスカッション“日本の理科教育を明るくするために”

参加費は無料です。テキストは有料(一冊1,000円)です。申込締切は, 2006年10月20日(金)です。申込方法は, インターネットからの申込の場合は応用物理学会ホームページ(<http://www.jsap.or.jp/>)にアクセスしてください。ファックス・はがきでの申込の場合は, 氏名, 所属, 連絡先, 所属学会名を記入の上, 下記へお送りください。

【問合先】 102-0073 東京都千代田区九段北1-12-3 井門九段北ビル5F (社)応用物理学会教育シンポジウム係 TEL 03-3238-1041 FAX 03-3221-6245 E-mail symp@jsap.or.jp

●**2006年度藻類談話会**が, 11月11日(土)(午後1時～5時)に, 神戸大学瀧川記念学術交流会館(神戸市灘区六甲台町1-1)で開かれます。内容は次のとおりです。

1) 好冷性微細藻類の光環境応答機構(兵庫県大院生命理学・菓子野康浩), 2) シアノバクテリアの初期進化: 分子系統学・古生物学的アプローチ(海洋研究開発機構・富谷朗子), 3) 紅藻の無性生殖化に関する進化生物学的研究(福井県大生物資源・神谷充伸), 4) 東シナ海の流れ藻(アカモク)と日本各地のアカモク・シダモク種群の形態変異について(京都大院地環・鯉坂哲朗, 神戸大内海域・上井進也)

参加費は500円, 懇親会費は3,000円(学生1,500円)で

す。詳細はホームページをご覧ください。

【問合せ】 606-8501 京都大学大学院人間・環境学研究所
 環境学専攻 幡野恭子 TEL 075-753-6854 FAX 075-753-6694
 E-mail kyokohat@bioh.mbox.media.kyoto-u.ac.jp
 ホームページ <http://biotech.nikkeibp.co.jp/100HP/> より「バイオ・基礎医学関係者の皆のホームページ」→「学会・研究会」の項目をお選びください。

●第31回日本比較内分泌学会シンポジウム「比較内分泌学の新世紀」が、12月7日(木)(午前9時～午後5時)に、早稲田大学国際会議場(井深ホール)で開かれます。内容は次のとおりです。

今回のシンポジウムは、最近最も注目を浴びている新規生理活性ペプチドやフェロモンに関する研究発表に加え、このようなホルモン物質の進化と起源についても幅広い発表と討論が行われます。

セッション1：生体システム調節に関わる神経ペプチドー構造・機能および進化的背景ー：オレキシンによる睡眠・覚醒の制御機構(桜井 武)，KO マウスが示すオキシトシン・オキシトシン受容体系の持つ多彩な機能：その組織，生理，行動(西森克彦・高柳有紀・吉田匡彦・笠原好之)，PACAP の神経保護作用と分化誘導機構(中町智哉)，ニワトリヒナの脳内摂食調節機構(橘 哲也)，比較内分泌学的に観たグレリンの構造と機能ー魚類を中心にー(海谷啓之・寒川賢治)，神経ペプチドによる魚類の摂食制御機構の探求ー脳制御機構の進化モデル構築の試みー(松田恒平)

セッション2：ホルモンの起源と進化を探る：GnRHの多様な生理活性とその進化的意義の探求(朴 根根)，ナメクジウオと脊椎動物の内分泌系の比較(窪川かおる)，カタユウレイボヤをモデルとした神経ペプチドの構造と機能の進化(関口俊男)，棘皮動物の生殖腺刺激ホルモンとインスリンファミリー(吉国通庸)，プラナリアとカイメンにおけるアミド化酵素の探索(船山典子)

セッション3：フェロモンと生殖研究のフロンティア：フェロモン合成・放出・受容のホルモン制御(菊山榮)，マウスの社会行動からみた嗅覚コミュニケーションの意味と機能(小川園子)，フェロモン記憶とホメオスタティックプラスティシティー(椋 秀人)，性フェロモンの受容メカニズム：嗅覚コミュニケーションの多様性と進化(東原和成)，哺乳類フェロモンの探索研究：ヤギの雄効果フェロモンとラットの警報フェロモン(森 裕司)

参加費は無料ですが、引き続き早稲田大学大隈ガーデンハウスで開かれる懇親会には参加費が必要です(学生：2,000円，一般：5,000円)。懇親会は予約上、懇親会に参加を希望される方は次の申込先までご連絡下さい。

【連絡先】 早稲田大学教育学部生物学教室 山本和俊
 TEL 03-3208-8449 E-mail kaz21@waseda.jp

なお、詳しい内容は下記のホームページを参照してください。ホームページ http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsce3/meeting/jsce2006/jscesymp31_01.html

講 習 会

●電顕試料作製・観察実技および光顕技法講習会が下記の要領で行われます。

日本顕微鏡学会関東支部では、電子顕微鏡を扱う初等ないし中等の研究者及び技術者の技術向上を目的とし、数名のグループ単位で実技の指導を行っています。一連の実習と講師とのディスカッションが能率良く計画されており、それぞれのコースを修了すれば、試料作製が一通り出来るようになることを目指しており、修了書も発行されます。講習期間はコースによって異なりますが、3日から5日で、平成18年9月から平成19年3月末までの間に実施します。詳細および申し込み用紙等は日本顕微鏡学会 Web サイト (http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsm/kanto_shibu.html) にございます。奮ってご参加ください。

【講習内容】

医学生物系：1) 生物試料超薄切片法(医・生物)，2) 走査電子顕微鏡試料作製法(医・生物)，3) フリーズレプリカ法(医・生物)，4) 細胞培養と光顕観察の基礎(医・生物)，5) 電顕免疫組織細胞化学(医・生物)，6) ラットの血管鋳型作製法(医・生物)，7) 単細胞微細藻類の電顕試料作製法(医・生物)，8) 免疫透過および走査電顕法の実験ー遊離細胞を中心にしー(医・生物)，9) 細胞培養と電顕観察の基礎(医・生物)，10) クリオスタット切片の作製とレーザーマイクロダイセクションによる遺伝子解析の基礎(医・生物)

物質材料系：1) 高分解能電子顕微鏡観察法(セラミックス)，2) 高分子材料の電子顕微鏡試料作製法(共通)

【申込・問合せ】 152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 S8-6 東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻 中村吉男 TEL & FAX 03-5734-3144 E-mail yoshio@mtl.titech.ac.jp

● **平成18年度筑波山の菌類観察会**が、10月8日(日)に、菌学教育研究会 筑波センター(茨城県つくば市筑波2074-3-4)で行われます。内容は次のとおりです。

山頂周辺のブナ林を中心に計画しています。指導者は、根田 仁、土居祥兌です。

参加費：正会員一般3,000円、正会員学生2,000円(非会員の方は1,000円増)

詳しくは申込まれた方にご連絡します。

参加希望者は下記の問合せ先に連絡下さい。申込はがきを送ります。

【問合せ・連絡先】

- 1) 187-0032 東京都小平市小川町2丁目1299-49
菌学教育研事務局
布村公一 TEL&FAX 042-343-6836
E-mail bzg22155@nifty.com
- 2) 305-4352 茨城県つくば市筑波2074
土居祥兌 TEL 029-867-2254 または 090-5440-6882
E-mail ydsotowa@ce.wakwak.com
- 3) はがき送り先
190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井2196-152
近藤和彦 TEL 042-597-1166
E-mail hinodekon@ybb.ne.jp

● **平成18年度自然観察会「川原の生きもの」**が、10月15日(日)に、多摩川(二子玉川)で行われます。

オギの穂が風にゆれる二子玉川の川原で、トノサマバッターやキチョウなどの昆虫、カルガモやコサギなどの水鳥を観察します。その後、実際にオギで、みみずく作りなども行います。指導者は国立科学博物館附属自然教育園職員です。募集人員は50名(小学生以上、小学生には保護者の参加が必要)で、実施日1か月前から電話で受け付けます。定員になり次第締切ります。参加費は無料(ただし、保険料として1人50円当日支払)です。申込が受理された方には参加通知票を郵送します。当日必ず参加通知票を持参ください。

【問合せ先】 108-0071 東京都港区白金台5-21-5 国立科学博物館附属自然教育園 TEL 03-3441-7176(午前9時～午後5時、月曜日を除く)

● **「菌類の多様性と分類」平成18年度後期講座**が、11月10日(金)～13日(月)に、本研究会 筑波センター(茨城県つくば市筑波2074-3-4)で開かれます。内容は次のとおりです。

平成18年度「菌類の多様性と分類」後期講座4日間コース：11月10日(金)「顕微鏡の使い方」(菌学教育研究会・浅井郁夫、土居祥兌)／11日(土)「ヒダナシタケ目硬質菌類の分類入門」(神奈川キノコの会・城川四郎)／12日(日)午前：「茨城県のキノコ」(平井信秀)、午後：「群馬県のキノコ」(群馬県野生きのこ同好会・須田隆)／13日(月)「菌株保存センターの紹介と植物寄生菌類培養保存株の観察」(農業生物資源研・佐藤豊三)

詳しくは申込まれた方にご連絡します。

講座開催時間(目安)は、午前10：00～12：30および午後13：30～17：00です。

募集人員は、1講座 11月10日は10名、11・13日は約25名、12日は約50名です。参加費は、1日につき正会員一般3,000円、正会員学生2,000円(非会員の方は1,000円増)です。

参加希望者は下記の問合せ先に連絡下さい。申し込みはがきを送ります。

【問合せ・連絡先】

- 1) 187-0032 東京都小平市小川町2丁目1299-49
菌学教育研事務局
布村公一 TEL&FAX 042-343-6836
E-mail bzg22155@nifty.com
- 2) 305-4352 茨城県つくば市筑波2074
土居祥兌 TEL 029-867-2254 または 090-5440-6882
E-mail ydsotowa@ce.wakwak.com
- 3) はがき送り先
190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井2196-152
近藤和彦 TEL 042-597-1166
E-mail hinodekon@ybb.ne.jp

公 募

● **平成19年度笹川科学研究助成の対象者**が募集されています。

人文、社会科学および自然科学(医学を除く)に関するものを対象にし、萌芽製、新規性および独創性のある内容をもった研究内容で、意欲に満ち優れた研究を行う若手研究者の育成のため、その研究に対して助成されるものです。

平成19年度からは従来の「一般科学研究」および「海洋・船舶科学研究」を対象とした【学術研究部門】と、従来の「学芸員・図書館司書等が行う研究」助成を発展させた【実践研究部門】の2部門になりました。

【学術研究部門】対象領域：人文、社会科学および自然科学（医学を除く）に関する研究／助成額：1研究計画あたり100万円以内（1年間）／対象者：満35歳以下の若手研究者

【実践研究部門】対象領域：教育・学習・自立支援等を行う現場に所属する者またはグループが、その現場、または広くその分野の活性化に寄与することを目的とする研究／助成額：1研究計画あたり50万円以内（1年間）／対象者：教員、学芸員、図書館司書、スクールカウンセラー、指導員等

募集期間は、10月1日(日)～10月13日(金)(必着)です。応募方法については、下記に問い合わせてください。詳細は下記ホームページをご覧ください。

【問合せ先】107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階 (財)日本科学協会 笹川科学研究助成係 担当小柳 TEL 03-6229-5365 FAX 03-6229-5369 E-mail jss@silver.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.jss.or.jp>

●第9回大学婦人協会守田科学研究奨励賞の受賞候補者が募集されています。

本賞は化学教育者故守田純子氏から遺贈された資金を基にして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。対象は、自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40才未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。授賞件数は年2件以内で、賞状および副賞50万円が贈呈されます。提出書類は、1）推薦状、2）履歴書（写真添付）、3）研究業績リスト、4）主要な論文別刷5編以内 それぞれ3部（論文別刷りはコピーでも可、返却せず）、5）研究題目とその概要および今後の展望と抱負を記したものの（A4版2頁以内）です。応募締切は11月30日(木)(必着)です。詳細は下記に問い合わせてください。

【書類送付先・連絡先】160-0017 東京都新宿区左門町11-6-101 (社)大学婦人協会 TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889 E-mail jauw@tky2.3web.ne.jp ホームページ <http://www.jauw.org>

●第12回（2007年度）日本女性科学者の会奨励賞候補者が募集されています。

対象は自然科学分野の研究実績があり、その将来性を期待でき、かつ本会の目的に賛同し、その達成のために

努力していると認められる本会会員（応募時入会可）です。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職（教授、部長等）にある方はご遠慮ください。受賞者には賞状と奨励金20万円（年1～3件）が贈られます。応募書類請求期間は10月2日(月)～31日(火)で、下記まで必ずハガキで請求してください。応募期間は11月1日(水)～15日(水)(必着)です。

【書類請求先・送付先】153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科 生命環境科学系 身体運動科学 日本女性科学者の会賞連絡事務局 濱中すみ子理事宛 FAX 03-5454-4317 E-mail hamanaka@idaten.c.u-tokyo.ac.jp

●平成18年度（財）昭和聖徳記念財団による学術研究助成が募集されています。

対象研究分野は系統分類に関する生物学の研究で、原則として学術研究機関に属している人、またはグループが対象となります。助成額は1件当たり50万円以内で、助成期間は1年間（平成19年4月～平成20年3月）です。締切は12月11日(月)(必着)です。詳細は下記へ問い合わせてください。

【書類提出先・問合せ先】190-0012 東京都立川市曙町2-34-13 オリピック第3ビル (財)昭和聖徳記念財団「学術研究」係 TEL 042-522-2451 FAX 042-522-7747 E-mail ssmf@f-showa.or.jp ホームページ <http://www.f-showa.or.jp>

●平成18年度風戸研究奨励金（研究費助成）および風戸奨励賞の応募者が募集されています。

電子顕微鏡並びに関連装置の研究・開発および電子顕微鏡並びに関連装置を用いた研究（医学、生物学、材料学、ナノテク、その他）に携わっている研究者が対象とされます。満40歳以下（応募締切日現在）の研究者を対象とし、1件100万円以内で約4名以内に贈られます。応募を希望する人は、所定の申込用紙に必要事項を記入し、最近の主な論文3編の別刷各9部（うち8部はコピーで可、写真はオリジナルと同等のもの）、推薦状1通、履歴書1通、業績リストと主要な業績の説明1通を添えて書留で下記に送ってください。締切は、12月31日(日)（当日消印有効）です。申込用紙はホームページ（<http://www.kazato.org/>）よりダウンロードできます。

なお、平成13年度より「風戸奨励賞」を制定しました。本賞は当該年度風戸研究奨励金受賞者のなかで、「応募

の研究内容、業績リスト（主要な業績の説明）」をもとに、選考委員会において、これまでの研究が優れた業績に値すると認められ、さらに今後の研究成果が期待できると評価された研究者に「風戸奨励賞」を選考し、賞状を授与します。

【問合先】 196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 日本電子株式会社内（財）風戸研究奨励会 事務局 浜中 巖 TEL 042-542-2106 FAX 042-546-9732 E-mail kazato@jeol.co.jp ホームページ <http://www.kazato.org/>

求 人

●島根大学総合科学研究支援センター生体情報・RI 実験分野で専任助教授1名が公募されています。

担当分野は、総合科学研究支援センター生体情報・RI 実験分野長（教授、兼任）の下で同分野の管理運営に係わる職務を遂行するとともに、同分野に関連するテーマでの研究を行って頂きます。特に、研究支援活動に積極的に取り組んで頂ける方を求めています。任期は、5年です（再任可：このことについてご質問がありましたら、島根大学学術国際部研究協力課にお問い合わせ下さい）。採用予定時期は、できるだけ早い時期です。

提出書類は、1）推薦書（1通）、2）履歴書（1通）、3）業績目録（1通）、4）代表的学術論文10編の別刷、5）その他の資料です。提出書類の記載等については、公募要項をご参照ください。本学ホームページ <http://www.shimane-u.ac.jp> の「採用情報」→「教員公募情報」に掲載していますので、これに基づき応募願います。書類選考後、プレゼンテーションと面接のため来学頂く場合がありますので、あらかじめご承知おき願います。

提出期限は、平成18年8月31日（木）（必着）です。封筒には、「総合科学研究支援センター生体情報・RI 実験分野助教授候補者応募書類在中」と朱書き、簡易書留で送付ください。

【書類提出先】 690-8504 松江市西川津町1060 島根大学学術国際部研究協力課 島根大学総合科学研究支援センター長 富岡治明

【問合先】 島根大学総合科学研究支援センター生体情報・RI 実験分野分野長 富岡治明 TEL 0853-20-2146 E-mail tomioka@med.shimane-u.ac.jp（島根大学学術国際部研究協力課 TEL 0852-32-6056 E-mail kenshi@jn.shimane-u.ac.jp）

●東京大学海洋研究所海洋生命科学部門（生理学分野）で特任助手1名が公募されています。

生理学分野では、遺伝子から個体レベルにいたるさまざまな研究手法を用いて、海洋生物のもつ多様な環境への適応機構について研究を行っています（<http://physiol.ori.u-tokyo.ac.jp/seiri/>）。本公募では、適応生理学、比較内分泌学などの研究領域に強い関心をもち、広く海洋生物の適応機構について意欲的に研究を進めることができる若手研究者を求めます。海洋生理学に関心があれば、現在の研究分野を問いません。任期は最長5年で、任期内に審査を経て助手への任用が可能です。

応募要件は、1）博士の学位、2）平成18年4月1日で35歳未満が望ましい、3）国籍は問いません。採用予定日は、平成18年10月以降のなるべく早い時期です。

提出書類は、1）履歴書（東京大学統一様式（http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html）による）、2）研究業績目録（原著論文、総説、その他に分けること。また、原著論文については被引用件数を付記すること）、3）主要論文3編の別刷（またはコピー）各1部、4）これまでの研究の概要（1000字程度）、5）今後の研究に対する抱負（1000字程度）、6）推薦書（1通）、または参考意見を述べることでできる人（2名）の氏名および連絡先、です。なお、特に要望がない限り提出書類は返却しません。公募締切は平成18年9月16日（土）（必着）です。封書に「生理学分野特任助手応募書類在中」と朱書きし、簡易書留等で送付してください。

【書類提出先】 164-8639 東京都中野区南台1-15-1 東京大学海洋研究所・所長 寺崎 誠

【問合先】 生理学分野・教授 竹井祥郎 TEL 03-5351-6462 E-mail takei@ori.u-tokyo.ac.jp

●長崎大学環境科学部自然環境保全講座で助教授1名が公募されています。

研究分野は環境生理科学です。担当科目は（博士後期課程）環境生理学特論、研究科特別講義、研究科特別演習、学外実習、研究指導、（博士前期課程）環境生理学特講、環境生物科学特講、総合セミナー B、環境保全設計学演習 I、環境保全設計学演習 II、研究指導、（学部専門教育）環境生理学、環境保全設計演習 A・B、生理科学、環境科学概論 B、環境保全設計基礎実験 B、環境保全設計実験 B、野外生物調査、卒業研究、（全学教育）生物の科学、教養セミナー等です。就任時期は平成19年4月1日の予定です。応募資格は博士の学位を有し、平

成19年4月1日現在で45歳未満が望ましい。

応募書類は1)履歴書(様式自由、ただし写真、所属学会、受賞歴、講義担当歴を付すること)、2)業績リスト(査読あり論文、査読なし論文、総説・解説、著書、招待講演、特許、博士論文に分類)、3)主要論文別刷7編以上(各1部)を添付(コピー可、主要論文には日本語で200字以内の要約添付)、4)過去3年の学会発表リスト(学会名(発表年)、発表者、発表題目)、5)これまでの研究概要(A4紙片面で2枚程度、業績リスト上の論文等の番号を引用してください)、6)今後の研究計画と教育に関する抱負(A4紙片面で2枚程度)、7)過去10年間の競争的外部研究資金獲得状況(科研費を含む)、8)本人について参考意見を求め得る2名の方の氏名と連絡先です。応募書類の返却を希望される場合は宛名を明記し、切手添付の返信用封筒を同封してください。応募期限は平成18年9月19日(火)(必着)です。封筒に「自然環境保全講座教員応募書類在中(環境生理科学)」と朱書し、書留または簡易書留で郵送してください。

【書類提出先】 852-8521 長崎市文京町1-14 長崎大学環境科学部長

【問合せ先】 852-8521 長崎市文京町1-14 長崎大学環境科学部総務係へ文書、または講座主任(後藤 n-goto@nagasaki-u.ac.jp)

●山形大学理学部生物学科では生物多様性講座と生体機構講座で、それぞれ教授または准教授1名を公募しています。

生物多様性講座で公募する教員は、植物または原生生物を対象とした分類学・系統学を専門分野とし、博士号を有し、生物多様性論、植物分類学実習などの学部専門科目の講義・実験のほか、教養教育科目、大学院理工学研究科(博士前期・後期課程)の講義・演習・セミナーを担当できる方です。専門分野に関連した生物の種分化・進化のプロセス解明の研究に従事している方を希望します。

生体機構講座で公募する教員は、動物を対象とした生理・生化学を専門分野とし、博士号を有し、専門分野に関連した学部専門科目の講義・実験のほか、教養教育科目、大学院理工学研究科(博士前期・後期課程)の講義・演習・セミナーを担当できる方です。

両講座とも、採用は平成19年4月1日を予定しています。提出書類は、1)履歴書、2)研究業績目録、3)主要論文(10編程度)の別刷またはコピー、4)これまでの研究内容とこれからの研究・教育の抱負(それぞれ2000字程度)、5)受賞・外部資金導入状況と主な学会・社会

活動、6)応募者の照会に応じられる方2名の氏名と連絡先です。応募締切は、平成18年10月13日(金)です。

【書類提出先・問合せ先】

生物多様性講座教員に応募する方：990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学理学部生物学科 原 慶明 TEL 023-628-4610 E-mail hara@sci.kj.yamagata-u.ac.jp (封筒表に「生物学科生物多様性講座教員応募書類」と朱書して簡易書留で郵送してください)

生体機構講座教員に応募する方：990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学理学部生物学科 森沢正昭 TEL 023-628-4612 E-mail morisawa@sci.kj.yamagata-u.ac.jp (封筒表に「生物学科生体機構講座教員応募書類」と朱書して簡易書留で郵送してください)

●神奈川大学理学部生物科学科で助手(任期制)1名が公募されています。

専門分野は生化学です。任期は、2007年4月1日～2012年3月31日まで(5年間)で、職務内容は生物科学実験などの担当および卒業研究・院生の指導補助、実習室の管理および研究機器類の保守、学科ホームページの管理などです。

応募資格として、着任時に満35歳以下で博士号を既に取得もしくは見込みの方を求めています。

提出書類は、本学科における教育についての抱負、これまでの研究概要と今後の研究計画、履歴書、研究業績目録、など計7点です。

応募締切は、2006年10月14日(土)(消印有効)です。応募の詳細は下記に問い合わせして下さい。

【書類提出先】 259-1293 平塚市土屋2946 神奈川大学理学部 学部長宛

【問合せ先】 神奈川大学理学部生物科学科 主任 日野晶也 E-mail hino001@kanagawa-u.ac.jp

学科と本公募の詳細については、<http://www.bio.kanagawa-u.ac.jp> をご覧ください。

●広島大学大学院理学研究科生物科学専攻動物科学講座で教授1名が公募されています。

専門分野は、発生生物学分野(下記註参照)です。担当科目は、大学院、学部における発生生物学関連の講義及び実験です。応募資格は、1)博士の学位を有し、専門分野で優れた研究業績のある者、2)大学院及び学部での学生教育、研究指導に対して十分な能力と熱意がある者、3)発生生物学に関する学部の講義・実習・研究

指導及び上記研究分野における大学院の講義・演習・研究指導を担当できる者、4) 本生物科学専攻がめざす、理学における生物学という原点を大切にした教育・研究に積極的に取り組み、独創的研究を推進する意欲のある者です。着任時期は、平成19年4月1日以後のできるだけ早い時期です。

提出書類は、1) 履歴書(所属学会も記入)、2) 研究業績リスト(原著論文・著書・総説等に区分、学位論文に○印)、3) 主要論文別刷5編、4) 現在までの研究概要(2000字程度)、5) 将来の研究・教育に関する抱負と展望(2000字程度)、6) その他、教育・研究活動を評価できる参考資料(学界ならびに社会における活動状況、研究費取得状況、国際交流実績等)、7) 所見をいただける方2名の氏名と連絡先です。応募締切は、平成18年10月30日(月)必着(「応募書類在中」と朱書きし、書留で送付してください。)

【書類提出先・問合先】 739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻 細谷浩史 TEL 082-424-7443 E-mail hhosoya@hiroshima-u.ac.jp

註：発生物学研究室が所属する生物学科・生物科学専攻の構成員と研究テーマについては、HP (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/biology/index.html>) をご覧ください。

【取得する個人情報についての取扱い】 応募書類により取得する個人情報は、採用者の選考を行う目的で利用するものであり、この目的以外で利用又は提供することはありません。なお、採用に至らなかった方の応募書類は、当該採用選考業務終了後、適切な方法にて返却いたします。

●熊本大学大学院自然科学研究科生命科学講座で助教授1名が公募されています。

専門分野は、陸上植物の生物多様性に関する研究分野で、分類学や生態学及び関連分野に十分な業績をあげている40歳未満の人を希望します。

職務内容は、理学部「生物環境プログラム」の講義、実習、および学生の研究指導、大学院自然科学研究科前期課程、後期課程の講義、及び大学院生の研究指導、教養教育の講義、実習です。任用予定年月日は平成19年4月1日です。

提出書類は、1) 履歴書、2) 業績リスト(次の項目に分けて提出して下さい。a) 査読のある専門誌に印刷された論文(印刷中の論文を含む)(専門誌のインパク

トファクターも付けて下さい)、b) 紀要その他の論文等、c) 総説・解説、d) 著書、e) 国際会議、国際・国内シンポジウムでの発表(招待講演には丸印を付けて下さい)、f) 受賞等)、3) 主要論文の別刷り各1部(5編程度、コピーも可)、4) これまでの研究概要と今後の研究(3,000字以内)、5) これまでの教育概要と今後の教育への抱負(2,000字以内)、6) 社会的活動(所属学会及びその中での活動を含む)、7) 科研費等の研究費取得状況、8) 応募者について問い合わせのできる方の氏名と連絡先(2名)です。公募締切は、平成18年10月31日(火)(必着)です。封書に、「大学院自然科学研究科生命科学講座助教授選考応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送して下さい。

【書類提出先】 860-8555 熊本県黒髪2-39-1 熊本大学自然科学系事務部理学系総務係

*提出書類は各1部で特に様式の指定はありません。なお、提出書類は返却しません。最終選考でセミナーを行って頂く場合もありますので、ご承知おき下さい。その際の旅費は自己負担です。平成18年度の改組によって、大学院自然科学研究科と理学部は教員組織が統合されました。

*大学院自然科学研究科と理学部の組織、教育体制については、ホームページ(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/index-j.html>)を参照してください。

【問合先】 熊本大学大学院自然科学研究科生命科学講座教授 内野明德 TEL & FAX 096-342-3448 E-mail uchino@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp

●慶應義塾大学商学部生物学教室で助手(嘱託)1名が公募されています。

主な仕事は、総合教育科目「生物学」における学生実習の指導です。専門分野は問いませんが、文科系学生への生物学教育に理解と熱意がある方を希望します。採用期間は1年間ですが、5年までの契約更新が可能です。着任時期は平成19年4月1日です。応募資格は、着任時に修士以上の学位を持つ32歳以下の方です。

提出書類は、1) 履歴書(写真貼付)、2) 業績リストと論文別刷り(コピー可)、3) これまでの研究概要(A4版1枚程度)、4) 文科系学生に対する自然科学教育の抱負(A4版1枚程度)、5) 可能であれば、応募者について照会できる2名の方の氏名と連絡先です。応募締切は平成18年11月10日(金)(必着)です。封筒に「生物学助手応募書類」と朱書きし、書留で送付してください。

【書類送付先】 108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学商学部長

【問合せ先】 223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1 慶應義塾大学生物学教室 福澤利彦 TEL 045-566-1337 E-mail fukuzawa@fbc.keio.ac.jp

書 評

入門 酵素と補酵素の化学 T. D. H. Bugg 著, 井上國世訳, シュプリングー・フェアラーク東京, 2006年, 320頁, 6,500円(本体価格)

本書は, 生物化学反応を触媒する巨大分子“酵素”について, 酵素とは何なのか, 酵素はいかにして働くのか, を出発点として, 主要な酵素反応を例にとりながら, 有機化学の立場から解説している。まず, ポリペプチドである酵素の構造と機能, 種類に触れ, 酵素触媒反応における高い速度をタンパク質の動力学的性質から説明しようと試みる。次いで, ポリペプチド, 多糖類, 核酸などの重要な生体分子における加水分解反応や基転移反応を詳説し, 酸化と還元, 炭素化合物の生合成, 付加・脱離反応, 異性化反応を個々の酵素を例に挙げながら引き続き概説する。加えて, ラジカル化学に関するトピックスとして, 酵素が生成する多様なフリーラジカル中間生成物について, フラビン酵素, シトクロム P450モノオキシゲナーゼ, ある種の金属酵素などを例に興味深い解説をしている。最終章では, 選択的な酵素-基質相互作用の類型として他の生体高分子に見られる例, 即ち, リボ核酸による自己スプライシングに言及している。また, 最初の問である, 酵素はいかにして働くのか, について酵素に類似した触媒作用をもつ合成分子の設計へ向けた取り組みに触れることで解に向けた一つの方向性を示そうとしている。生物化学の入門書として, すべての学部学生に一読を勧めたい

(明治大学・農 吉田健一)

寄贈図書の書評希望者募集

生物科学ニュース編集委員会では, 本委員会に寄贈されました下記の本の書評希望者を募集いたします。謝礼と致しまして書評した本を差し上げます。希望者は編集委員会まで葉書, FAX または E メールでご連絡ください。書評をお願いする場合は本と執筆要領をお送りいたします。但し希望者多数の場合, どなたにお願いするか

は編集委員会に一任願います。尚, 出版社より編集委員会に書評依頼のあった単行本以外の書評, および書評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。お書きいただいた書評は, 生物科学ニュースのみならず, 日本動物学会および日本植物学会のホームページにも掲載される場合があります。この点を, あらかじめご了承ください。

生態系へのまなざし 鷲谷いづみ, 武内和彦, 西田睦著 312頁 2005年 東京大学出版会 2,800円(本体価格, 以下同)/植物改良への挑戦ーメンデルの法則から遺伝子組換えまでー 鶴飼保雄著 348頁 2005年 培風館 2,500円/民族昆虫学 昆虫食の自然誌 野中健一著 202頁 2005年 東京大学出版会 4,200円/マネジメントの生態学ー生態文化・環境力回復・環境経営・資源循環ー 鈴木邦雄著 304頁 2006年 共立出版 3,300円/ホルモンの人間科学 山内兄人著 250頁 2006年 コロナ社 2,700円/共生という生き方 微生物がもたらす進化の潮流 トム・ウェイクフォード著 遠藤圭子訳 193頁 2006年 シュプリングー・フェアラーク東京 1,900円/再生医療の基礎シリーズー生医学と工学の接点ー (1) 再生医療のための発生物学 浅島 誠編著 259頁 2006年 コロナ社 4,300円/地球環境と生態系ー陸域生態系の科学ー 武田博清, 占部城太郎編集 282頁 2006年 共立出版 4,000円/DNAとタンパク質 石井信一著 188頁 2006年 裳華房 2,200円/人体 失敗の進化史 遠藤秀紀著 251頁 2006年 光文社 740円/シカの生態誌 高槻成紀著 480頁 2006年 東京大学出版会 7,800円/カラー版食虫植物図鑑 近藤勝彦, 近藤誠宏著 248頁 2006年 家の光協会 2,600円/細胞の中の水 パスカル・マントレ著 辻 繁, 中西節子, 落合正宏, 大岡忠一訳 312頁 2006年 東京大学出版会 5,200円/新・生命科学ライブラリ B5 細胞の形とうごきV 細胞の運動と制御 大日方昂著 206頁 2006年 サイエンス社 2,200円/植物と環境ストレス 伊豆田猛編著 220頁 2006年 コロナ社 3,200円/よみがえる恐竜・古生物 ティム・ヘインズ, ポール・チェンバース著 椿 正晴訳 群馬県立自然史博物館監修 215頁 2006年 ソフトバンククリエイティブ 2,800円

【連絡先】 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-6216 E-mail mkato@cc.ocha.ac.jp または kubo@rinshoken.or.jp